

# P D C A

「P D C A」というアルファベット四文字の言葉を知っていますか。Pは「PLAN(プラン)」、Dは「DO(実行)」、Cは「CHECK(評価)」そして、Aは「ACTION(改善)」、それぞれの頭文字をとって並べた言葉です。もともと、ものを作ったりより良くしたりする企業の考え方でした。しかし、最近は、教育を初めとしてあらゆる人間の営みにおいて、その必要性が叫ばれるようになりました。実は「主体性」にも、このP D C Aが大きく関係すると私は思います。

一昨日の朝、生徒会執行部の数名が、急いで校舎内に駆け込む姿を見かけました。アルミ缶の回収作業を終え、朝読書に向かおうとしているところでした。その前日には、執行部が放送を通して、アルミ缶回収の参加率を放送で発表していました。どちららも、当たり前前に取り組んでいるアルミ缶回収の、いつも通りの姿です。

しかし、私は「おや？」と思ったことがありました。アルミ缶回収の参加率の放送が流れた時です。具体的な数字については覚えていませんが、三年生の参加率が高く、一、二年の参加率を上回っていたように記憶しています。

「三年生頑張っているなあ」と言いたいところですが、私が思ったことはそうではありませんでした。

「以前は三年の参加率が低く、それを大きく後輩たちが上回っていた覚えだが、今はその逆になっている……三年生の頑張りは認めても、それだけで済ましてはいけけない気がする。」  
今年度の生徒会には、全校に大きな「うねり」を生み出すことを期待しています。それを実現するために意識してほしいことは、これまでの踏襲では「うねり」は生まれにくいということです。現に、以前とは参加状況が違っています。どこか、何かを新しくする必要がありそうです。

したがって、先のP D C Aの「C」と「A」が大切になってきます。前年の参加率と比べてどうか。学年ごとの参加率に差が生じているとすれば、それはなぜか。学級毎の参加率に差はないか。あるとすれば、それはなぜか。評価すべきこと検討すべきことはたくさんあります。それらがすべて「C」になります。そして、実際に今のやり方を変更したり工夫したりするのが「A」となります。

時間のない中、「C」の時間を見出すことは難しいですし、ボランティアである以上強制するようなやり方ではいけませんから、慎重にやらなければなりません。踏襲で満足するのではなく新しい方法や工夫で「うねり」を作り上げるためには、「C」と「A」を積極的に取り入れていく必要があります。そうですね。がんばれ、生徒会執行部！

(五月二十八日記)